兵庫教育大学広報誌
http://www.hyogo-u.ac.jp

教育子午線

Kyoiku-Shigosen
October, 2010
vol.24

兵庫教育大学

◎キャンパス通信
◎うれしの交差点

◎研究レポート
有園博子　DV被害母子への心理的回復支援について：母子へのグループ療法アプローチ

◎教育最前線

特別支援教育行政の現状と課題

巻頭言
Message

教師教育制度の改革

学長 加治佐哲也（かじさてつや）

民主党政権が誕生し、教師教育制度の抜本的な改革が政権公約に掲げられました。今年6月、文部科学大臣から諮問が行われ、現在、中央教育審議会（中教審）で審議されています。教師教育は養成―選考・採用―研修の3段階から成りますが、今回の諮問はこれらを一括して、教員の資質能力向上の方策や仕組みを総合的に検討することを求めています。

その改革の基本方向は、新人教員の養成課程を長期化・高度化するとともに、現職教員についても教職大学院を拡充してその資質能力の向上を図ることです。具体的には、民主党の昨年の総選挙マニフェストと参議院提出法案（廃案）によれば次のようなものです。

①これまでの教員免許制度を基本から改めて、普通免許状は新人教員用の一般免許状と現職教員用の専門免許状の2種類とし、文部科学大臣が授与する。

②一般免許状は6年間の養成課程（1年間の教育実習を含む）とし、学部と教職大学院、その他の大学院が受け皿となる（修士号取得が要件）。その後、養成期間は6年一貫ではなく、「4年＋アルファ（1年ないし2年）」という表現に変わった。

③専門免許状は8年以上の実務経験を経た現職教員に取得努力義務が課され、教職大学院がその受け皿となる。専門免許状には教科指導、生活・進路指導等、学校経営（校長・教頭に必須）の種類が設けられる。

このような改革構想は、国の責任として質の高い教師教育制度の構築を志向しているといえます。学校現場の複雑な課題を解決できる高度な専門性と実践的指導力が教員に求められていることは明らかであり、新人教員養成の「修士化」（4年＋アルファ）と現職教員への専門免許状取得努力義務化はその具体策として理解できます。

兵庫教育大学はこれまで、実践的指導力と高度な専門性を有する教員の育成をめざし、実績を挙げてきました。そうした本学の目的や取り組みが教員免許制度に具体的に反映されるということでもあります。従って、本学のミッションやこれまでの実績と軌を一にすると受け止めており、本学にとっては新たな発展の契機になり得ると考えています。

しかし、その具体の制度設計と実施に当たっては、多様な課題が想定されます。特に、受け皿となる教職大学院の仕組みと運用については多くの問題が指摘されています。教員養成の長期化による教員志望者減や、養成する大学院の絶対数不足が懸念されます。当初廃止するとされた免許状更新講習の行方をはっきりさせなければなりません。新しい制度実現の基盤となる財源の確保も、国の厳しい財政状況をみると安心できません。拙速に制度化を進めるのではなく、これらの課題を十分に検討・解決する必要があります。

一方で、本学において、中教審の審議や法案作成における制度設計の内容や実施スケジュールを十分に見極めながら、新しい教師教育制度への対応を迅速かつ慎重に進める必要があります。学部4年＋大学院1年・2年のカリキュラムと運営体制をあらためて開発・構築しなければなりません（特に実習について）。教員養成の開放制が維持されるとすれば、学部教育を行っている私立大学などとの連携は効果的でしょう。大学院への進学が事実上の新採教員の選考となる可能性がありますし、また大学院における研修に専門免許状が付与されますので、教育委員会との協力関係はこれまで以上に密接となるでしょう。

いずれにせよ、本学は、学部・大学院における教員養成・研修にかかる資源・能力と30年余の実績を基に、新しい教師教育制度に先導モデルとなるべく取り組まなければならないと考えています。

教育子午線 Kyoiku-Shigosen October, 2010 vol.24

兵庫教育大学の動き 2010年 6月→9月

⬆教職大学院公開授業及び研究会

⬆附属小学校5年生林間学校

⬆理科&科学の地域でのサイエンス祭

Campus Topics

6月

5日~7月3日	◎公開講座「ロシア民謡を歌いませんか?」(全5回)
12日	◎教職大学院公開授業及び研究会
12日・19日・26日	◎大学院説明会(神戸、福岡、岡山)
23日~25日	◎附属小学校5年生林間学校

7月

3日・10日	◎大学院説明会(神戸、大阪、東京)
6日	◎加東市との連携講座「子育て支援講座」(第2回)
8日・9日	◎附属幼稚園「わくわくキャンプ」
18日	◎学校教育学部オープンキャンパス
18日~20日	◎附属小学校6年生臨海合宿
29日	◎不登校児童生徒支援に関するネットワーク会議
30日~8月6日	◎小野市との連携事業「理科&科学の地域でのサイエンス祭」
31日~11月27日	◎免許状更新講習(必修領域6講習、選択領域61講習)

8月

1日	◎多可町との連携講座「自然を表すことばとあそぶ」
4日	◎大学院オープンキャンパス
11日	◎小野市との連携講座「幼児・児童生徒の<言葉の力>を育成する教師の指導性」 ◎公開講座「特別支援教育キャラバン」
21日・22日	◎大学院学校教育研究科前期日程入学者選抜試験
28日	◎西脇市との連携講座「青年期の心のありよう」 ◎加西市との連携講座「日本語で外国人とコミュニケーションをとるための上手な方法」
28日~10月2日	◎公開講座「ガムランはともだち」(全6回)
28日、11月6日・20日	◎公開講座「和文化体験講座―親子によるそばの栽培から手打ちまでの食文化体験―」(全3回)

9月

1日・2日	◎附属小学校4年生自然学校
4日	◎加東市との連携講座「子育て支援講座」(第3回)
11日	◎附属中学校体育祭
11日・18日・25日	◎大学院説明会(神戸、大阪、東京、京都)
11日~19日	◎公開講座「絵画制作」(全4回)
25日	◎公開講座「暮らしのなかの子育て・親育て―子どもと大人のかかわりを考えよう―」
26日	◎附属幼稚園創立30周年記念式典

目次 Contents

04 教育最前線 特別支援教育行政の現状と課題
06 大学院特別支援教育学専攻の取り組み
08 研究レポート DV被害母子への心理的回復支援について:母子へのグループ療法アプローチ 有園博子(臨床・健康教育学系准教授)
09 教育時事一問一答
09 教員の著書紹介
10 私たちの先生 増澤康男教授(自然・生活教育学系)
11 同窓生からの手紙
12 キャンパス通信
14 うれしの交差点 ゴールボールの練習に潜入!
14 大学院OBのアドバイスで障害者スポーツへの理解を
16 兵庫教育大学からのお知らせ

◎表紙

「夏どなり」
上山緑さん作(大学院修士課程芸術系コース1年)
2010年 103cm×73cm 膠彩・和紙
第60回加古川市美術展入選

※以外の数値は平成21(2009)年5月1日現在のもの

2.34%
約25万1,000人

新たな課題への対応

近年、学校現場では学習上の不適応や不登校、いじめ、自殺、被虐待経験、アレルギー疾患、精神疾患など、新たな課題が増えています。これらの解決には「生徒指導」「学校保健」「特別支援教育」の各領域で取り組むだけでなく、相互に関係を理解し、学校関係者と連携・協力することも重要です。

例えば、平成22年(2010)年3月にまとめられた「生徒指導提要」には、「発達障害のある児童は特性に応じた適切な支援があれば、適応状態は改善していきます。行動観察からつまずきや困難さの実態を把握し、対応を考えていく際には…(中略)…特別支援教育コーディネーターなど複数の目で検討し、理解を図ることが大切」とあります。

また、昨年刊行された「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」には、メンタルヘルスケアの観点から「発達障害のある子どもの健康観察記録表」が例示されています。このようにさまざまな課題に対して、特別支援教育の視点からも児童生徒を捉え、対応を考えていくことも必要なのです。

障害のある子どもの理解

障害のある子どもの教育については、平成18(2006)年に関係法令を改正し、学習障害(LD)や注意欠陥多動性障害(ADHD)、自閉症を「通級による指導」の対象としました。LDなどを含む発達障害の子どもの多くは通常の学級で授業を受けていますが、学習でのつまずきや困難を示している場合がよく見られます。

発達障害の子どもは、物事の捉え方や感じ方などに認知上の特性があります。特性によっては、できることとできないことのギャップが大きいため、教員はその能力的な遅れや偏りが分かりにくいことがあります。また、特性が十分に理解されないため、「わがまま」と受け止められて適正な対応がされていないことがあり、子どもはどう対処すればよいか分からず困ったままということもあります。

また、幼少期には認知特性が見られなかったが、成長とともに見られるようになったり、逆に特性が目立たなくなったりすることがあるため、診断名が変わることもあります。そのため診

丹羽登(にわのぼる)さん
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
特別支援教育調査官
平成12(2000)年度大学院修士課程障害児教育専攻修了

政の現状と課題

実施され、それまでの「特殊教育」からパラダイ
支援学校の教員募集は90人で、前年度の24
の意識の高まりが強く感じられます。現在の国の
の特別支援教育学専攻の取り組みを紹介します。

河相善雄(特別支援教育学専攻長　臨床・健康教育学系教授)

特別支援教育行

平成19（2007）年度から「特別支援教育」が
ム転換を果たしました。今年度の兵庫県の特別
人から4倍近くに増員されるなど、この領域へ
特別支援教育の整備の動向と、兵庫教育大学

特別支援教育の対象の概念図（義務教育段階）

1,074万人
義務教育段階の
全児童生徒数

障害の程度

重

特別支援学校

視覚障害　聴覚障害　知的障害　肢体不自由
病弱・身体虚弱

0.58%
約6万2,000人

小学校・中学校

特別支援学級

視覚障害　聴覚障害　知的障害
肢体不自由　病弱・身体虚弱　言語障害
自閉症・情緒障害

1.26%
約13万5,000人

通常の学級

通級による指導

視覚障害　聴覚障害　肢体不自由
病弱・身体虚弱　言語障害　自閉症
情緒障害　学習障害（LD）
注意欠陥多動性障害（ADHD）

0.50%
約5万4,000人

LD、ADHD、高機能自閉症など※6.3%程度の在籍率（約68万人）

※この数値は平成14（2002）年に文部科学省が行った調査において、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものではありません

軽

断名だけに頼り過ぎると、間違った実態把握となってしまう場合があります。これは、発達障害だけに限ったことではありません。学校にはさまざまな病気や障害を抱える子どもがおり、医師の診断を受けていなくても、学習上特別な配慮が必要な子どももいます。教員には、一人一人の病気や障害の実態に応じた支援方法を知っておくことが求められます。

近年、特別支援学校や特別支援学級での指導、通級による指導を受ける子どもは年々増えています。今後は増加への対応はもとより、通常の学級での指導でも、今まで以上に特別支援教育への理解と専門的な指導の充実が重要となっていきます。

大学と連携した教育実践

大学・大学院では、このように教育上の課題や子どもの実態を把握するため、分析的な視点と総括的な視点、さらに一見すると教育と関係がないと思えるような視点など、幅広い視野に立って、課題解決に向けた演習などを行っています。「大学での学習は現場では役立っていない」という一部の声も聞きますが、学習したことが役に立たないのではなく、現場でどのように役立てていけばよいかを各自が考えていくことが重要なのです。

現在、各大学が学校での実践に役立つ取り組みを試行しながら進めています。卒業・修了したら研究や研修は終了とするのではなく、兵庫教育大学の卒業生や修了生が中心となって、実践に役立つ取り組みについて積極的に大学・大学院と連携・協力を進めていただくことを期待しています。

大学院 特別支援教育学専攻の取り組み

大学院特別支援教育学専攻の心身障害コース（来年度から障害科学コースに改称）と特別支援教育コーディネーターコースでは、特別支援にかかわる総合的、実践的な研究と教師教育に取り組んでいます。特に近年は「国際的な視野の習得」「授業改善」「地域連携」を重視した活動を展開しています。

1 国際的な視野の習得

鳥越隆士（とりごえ たかし）
臨床・健康教育学系教授

モンゴル国の特別支援教育の専門家の養成に協力

特別支援教育学専攻では、これまでに取り組んできた特別支援教育にかかわる教員養成・研修プログラム開発の研究成果を、来年度に新設予定の「国際協力・支援」の科目に投影する準備を進めています。豊かな国際感覚を身に付けた教員を養成するためには、特別支援教育に関する素養が重要であると考えるからです。

同時に、途上国の支援にも研究成果を生かしています。モンゴル教育大学の教員との共同研究で、モンゴル国の特別支援教育の専門家向けの養成・研修プログラムを開発中です。

同国では民主化以降、経済的困窮により、新たな専門家の養成が不十分です。特に、同国からの要望が強い、知的障害（自閉症を含む）や肢体不自由、聴覚障害領域で取り組みを進めています。具体的には、相互に訪問して意見を交換したり、大学や特別支援学校でセミナーを開催したり、指導書を作ったりしています。

モンゴル国のろう学校幼稚部の様子

3 地域連携

宇野宏幸（うの ひろゆき）
臨床・健康教育学系教授
井澤信三（いさわ しんぞう）
臨床・健康教育学系准教授

各地の自治体や団体と協力し特別支援教育の充実をめざす

兵庫教育大学では県内自治体と特別支援教育の推進に関する連携協定を結び、学生の実践教育で効果を挙げるとともに地域の教育力向上に努めています。

特別支援教育コーディネーターコースでは、コース開設の平成18（2006）年度に川西市、猪名川町と協定を結び、現在では加東市や神戸市からも協力を得ています。現職教員の大学院生が地域の学校で移行支援、校内体制の推進、通常学級の授業づくり、コンサルテーションなどのテーマで実習に励んでいます。実習の成果は、関係教育委員会や実習協力校の教員と共有し、川西市立川西養護学校とは簡易テレビ会議によるケースカンファレンス、派遣元教育委員会担当者を交えた修士論文発表会など、大学院での教師教育と関連させながら連携を進めています。

心身障害コースでは、明石市立発達支援センターと連携し、教員や大学院生がソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニング、移行支援への企画・参加協力、巡回相談、事例検討会などに参加し、互いのレベルアップをめざしています。また、コースの教員が高砂市の専門家チームの活動に参加し、教育相談や校長研修やコーディネーターの事例検討会に協力するなど、連携体制を構築しつつあります。

県内各地の特別支援教育の推進を目的に、20（2008）年から北播磨、西播磨、但馬の3地域で「特別支援教育キャラバン」を実施してきました。地元の市町教育委員会や県立特別支援学校とともに企画・運営し、本専攻の教員による講演、各地域の特別支援教育に関する取り組みの紹介、意見交換などを行っています。

このように、本専攻では教員と大学院生が一体となった教育研究活動によって、県内各地域に密着し、現場の感覚が実感できる体制づくりをめざしています。

2 授業改善

芝田裕一（しばた ひろかず）
臨床・健康教育学系教授

教材・教具を整備して障害児への指導・支援法を具現化

授業改善の観点では、授業に必要な教材・教具を整備して学生の理解促進を図り、現場教員による講義や特別支援学校の見学などを通して、現場で役立つ知識や技能を習得することを目標としています。昨年度は8科目を対象に教材・教具を整備し、授業改善とその向上を図りました。その概要は次の通りです。

❶障害児・者教育に関する教材・教具を整備し、提示や指導を行いました。それにより、学生が視覚障害児や聴覚障害児、肢体不自由児などに対する指導・支援の具体像をイメージでき、理解向上につながりました。

❷①の教材・教具を使用した演習を通して、指導・支援に関する力量形成を図りました。

❸障害児・者の行動特徴をさまざまな視点から捉えられるように試みました。その行動特徴をデータ分析することで、例えば、発達障害児・者に対する理解が深まりました。

❹個別のアセスメントに加えて、学級単位のアセスメント学習を導入しました。

❺特別支援学校の教員による講義と特別支援学校の見学によって、現場の現状や課題が具体的な事例を伴って学生に理解されました。

研究レポート

Report of Research

このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金を受けた研究を紹介します。科学研究費補助金とは、すべての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は1人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3〜5年です。

有園博子（ありぞの ひろこ）
臨床・健康教育学系准教授

DV被害母子への心理的回復支援について：母子へのグループ療法アプローチ

（平成21〜23年度科学研究費補助金・基盤研究に採択）

ドメスティック・バイオレンス（DV）は、「配偶者や恋人など親密な関係にある者から振るわれる暴力」のことをいいます。「暴力」は、身体への暴力や言葉の暴力（言葉での嫌がらせや恐怖を感じる脅迫）、性的な行為の強要を指しますが、被害を受けていても「私は愛されているから暴力（束縛）を受けているんだ」「私が悪いから暴力を受けても仕方ない」などの誤解で、自分が被害者だと気づかない人も多くいます。

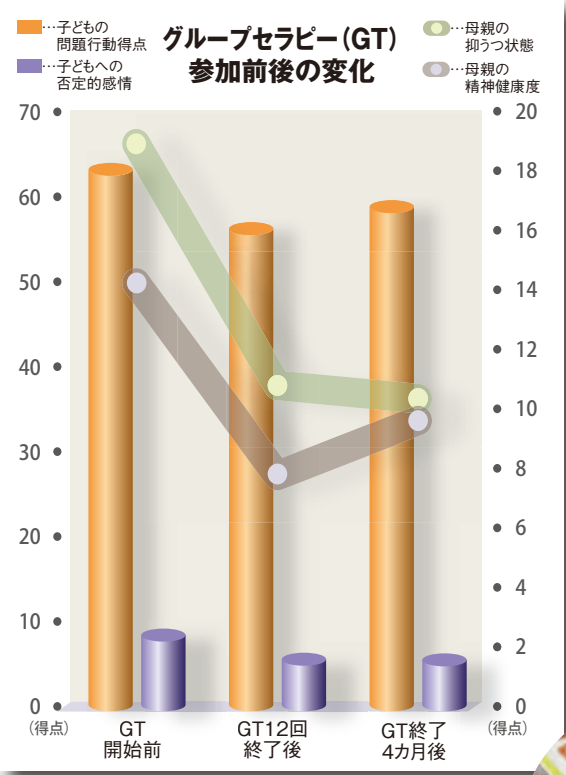
高校生の恋人間暴力（デートDV）の割合は、大人と同じく約33％でした（2007年・神戸市）。※ただし男子29％、女子38％と成人に比べて男子の被害割合が高い

配偶者暴力防止法（2001年）の施行後は、被害者の身体的安全を警察や配偶者暴力相談支援センター、地方裁判所が守ったり（シェルターなどへの一時保護、加害者が被害者に近寄らないようにする保護命令）、気軽に相談できる場所（市役所福祉課や各地の男女共同参画センターでの相談）や緊急避難的な住宅確保などの仕組みができています。相談件数は年々増えており、子ども虐待相談よりも年間で約2万5千件も多くなっています。被害女性の20人に1人は命の危険を感じており、一時保護所での同伴児童は46％います。加害者からの暴力は被害女性に対してだけでなく、子どもへの身体的暴力やDV目撃が同時に起こっていることも多くあります（2009年・内閣府）。

DV被害の影響は、けがや死亡の危険のある被害直後だけでなく、その後の生活環境を一変させることから長期的な問題になることもあります。被害から逃れた後に、被害の精神的影響性として、親子ともに感情コントロールが難しくなったり、子どもの暴言や暴力、不適応行動などで子どもへの対応に困惑・苦悩したりすることも多くあります。DV被害者への初期支援は充実してきていますが、新たな家族再建のための中長期支援はまだ十分になされていないのが現状です。

この研究では、神戸市と協力して、暴力環境から脱出し母子での生活を始めた母親を対象に、全12回のグループセラピーを行っています。グループではそれぞれの親子にとっての暴力被害の影響性の確認、親と子の危険回避の有効な方法の検討、気持ちを表現しても大丈夫な安心できる場所を体験し、新たな家族再建のための親子関係スキル獲得を目的にファシリテーターと参加者で話し合います。その結果、子どもの問題行動が起こっても子どもへの否定的感情が連動して高くならず、母親の精神健康度や抑うつ状態の改善に役立ったようです【グラフ参照】。

母子のDV被害からの精神的な回復はもちろん、子どもとの新たな生活環境の構築に役立つ支援を行政単位でできるようになることをめざしています。



➡「今の気分はどんな感じ?」。長期間DV被害に遭った人は気持ちを抑え込むことを学習しています。そこで、GT参加者は〝今の気持ち〟をカードで選んで、ほかの参加者に話すことで気持ちを表現しても大丈夫なことを体験します

古川雅文（こがわ まさふみ）
基礎教育学系教授

教育時事一問一答

最近、「キャリア教育」という言葉をよく聞きますが、その目的と内容とは。

学校教育は、単に試験のための勉強をさせることが目的ではありません。学校では、これから先の長い人生を送るために、子どもたちにさまざまなことを身に付けさせる必要があると考えられます。

例えば、①自分の興味や適性、能力について知る（自己理解）、②努力することの大切さを認識する（勤労観）、③職業の種類や働くことの意味について知る（職業観）、④コミュニケーション能力、チームワークの能力など、社会に出てから必要な能力を身に付ける（基礎的・汎用的能力）などです。キャリア教育は、これらの学習を学校教育におけるさまざまな機会で、計画的・組織的に行っていくものです。学習の方法としては、体験活動を事前・事後学習も含めて行うことが効果的と考えられています。また、各教科の学習の中でも将来の生活に結び付けるような工夫が求められます。

最近、不況のせいもあって、フリーターやニートと呼ばれる若者が増加しました。キャリア教育は、学校教育の改革や発展を促し、若者の社会への健全な移行を促進するカギとして注目されています。

Question & Answer

教員の著書紹介

本書に掲載している20種類のワークシートの多くは、編著者宅で月2回開催している「国語教育の実践と研究をつなぐ会」のメンバーが実際に授業で使ったものを基にして作成しました。新学習指導要領で重視されている「言語活動例」をどのようなかたちでワークシートとして展開すれば良いのか、実例を挙げて分かりやすく解説しています。書く力をぐんぐん伸ばすために、「5W1Hワザ」「つなぎ言葉ワザ」「問いかけワザ」など、子どもたちが自分で考えた「言葉のワザ」を活用しているところが特色です。（堀江）

書く力がぐんぐん伸びる!「言葉のワザ」活用ワーク

編著:堀江祐爾（社会・言語教育学系教授）　明治図書・平成22（2010）年刊

大学院の社会系研究指導教員12人と藤井ゼミ出身者が共同研究のかたちで編集した論文集です。各研究者がそれぞれの最新の関心事を提示しています。社町史の考察内容や中国寧波の水利、元禄期の検地帳利用の農村階層構成、中国「自然村」考察、哲学カウンセリング、和文化教育、世界史リテラシー、明治期の地理教育、コンビニを題材とした単元開発、英国初等地理教科書の利用、公的年金部分積立方式への移行研究など、多彩なラインアップです。いずれも大学院の研究指導現場の再現に近いものです。（藤井）

社会系諸科学の探究

法律文化社・平成22（2010）年刊　著:社会科学研究会　編者:藤井徳行（社会・言語教育学系特任教授）

Books

増澤康男（ますざわやすお） 教授
自然・生活教育学系

神奈川県出身。帝京大学薬学部助教授、㈶相模中央化学研究所研究員を経て、平成6（1994）年、兵庫教育大学の教授に就任。専門は栄養生化学・脂質生化学だが、総合学習系コースや授業実践リーダーコースにも携わるうち、研究対象が食育や環境教育、総合学習、探究的活動にも広がりつつある。

多種多彩な研究テーマに応じる懐の深さと引き出しの多さに心服

スマートな体型で、いつもおしゃれな増澤先生。普段は眼鏡を首に掛けていますが、ここぞという時は眼鏡を掛け直し、鋭い視線で意見を述べられます。

先生の専門は栄養生化学、食育、環境教育、総合学習ですが、ゼミ生の研究内容は小学校の総合的な学習、算数、食育、小学校外国語活動と中学校英語、中学校国語、高校情報教育など多種多彩です。そのため、ゼミはマンツーマン形式で行い、一人一人の問題意識、課題解決の意欲や意向をくみ取りながら、丁寧に指導してくださいます。

先生は「自分の研究はあくまで自らの課題から出発することを忘れないように」「学校現場での授業実践を通して課題研究を深めていきましょう」と言われます。課題解決や研究の方法だけではなく、迷いや混乱もじっくり聞いたうえで、学生自身が考え、整理し、方向を決定できるよう、必ず複数の新たな視点や方法をアドバイスしてくださいます。このような先生の懐の深さと引き出しの多さに引かれて、多くの学生が集まってくるのだと思います。

先生は幅広い知識がありながら、自分の考えを押し付けません。私たちの気持ちを尊重したうえで、適切な助言をしていただけるので、大変心強いです。

日々、忙しい先生の息抜きスポットは、自然、生活・健康棟の隣にある菜園です。先生は花担当として、ここでも多種多彩な植物の世話をされています。

⬆食育のカリキュラムづくりについて、兵庫県の学校における食育実践プログラムを基に助言をいただきました（林田）

➡現場での実践や研究で生じる迷いをじっくり聞いてくださいます（荒木）

荒木美景（あらきみかげ）さん
大学院専門職学位課程
授業実践リーダーコース1年

林田一成（はやしだかずなり）さん
大学院専門職学位課程
授業実践リーダーコース1年

Our Favorite Professor

先生から学生たちへ

自らの好奇心を明確な課題にまで磨き上げ、さらに具体化したうえで、「何をどこまでどのような方法で明らかにするか」をデザインし、データを積み重ねて論考する―。新規性を旨とする研究であれ、実践的課題の解決をめざす研究であれ、そのプロセスに大きな違いはありません。出発点は皆さんの問題意識であり、これを実践研究の軌道に乗せることが、私の役目であると考えています。

教職大学院では、私の専門だけでは指導するのが難しい課題を携えてくる学生が多くなりました。しかし、幸い、私に不足する部分は多くの本学教員に補っていただくことができます。これからも、皆さんの興味に寄り添い、一緒に好奇心を駆り立てながら、指導に当たっていくつもりです。

同窓生からの手紙

Letters From OB & OG

ふじわら ゆかり
藤原由香里さん
京都府八幡市立美濃山小学校教諭

京都府出身。平成18(2006)年、学校教育学部言語系コースを卒業。今年度は京都府八幡市立美濃山小学校で6年生を担任。インプロ(即興劇)を使ったコミュニケーション・ワークショップの企画・運営、教育系NPOの活動に意欲的に取り組んでいる。

留学経験を生かして新しい英語活動を模索中

兵教大に在学中、アメリカに9カ月間留学した経験を生かし、現在は学校内外で外国語活動の研究にかかわっています。AET(英語指導助手)と連携し、Team Teachingで授業をしたり、互いにアイデアを出し合って、新しい英語のプログラムを開発したりしています。例えば、子どもたちと英語を使ったダンスをつくって発表したり、子どもたち同士が協働しながら英語を学べたりできる授業に取り組んできました。

今は、表現(ダンスや音楽、演劇など)を取り入れて、子どもたちの創造力や表現力、コミュニケーション力が引き出せる授業づくりに力を入れています。表現活動を通して、普段の生活では見られない子どもたちの姿や感性が分かり、大きなやりがいを感じます。

大学時代は「いろいろな経験をしてから、教壇に立ちたい」と、留学以外にも、ダンス部やキャンプのリーダーなどにもチャレンジしました。これからも自分自身が学び続ける姿勢を忘れず、そして子どもたちの可能性を引き出せる授業づくりに励みたいです。

⬇AETと連携して英語活動を進めています

あさだ たけなり
淺田武成さん
加古川市立東神吉小学校教諭

加西市出身。平成3(1991)年に学校教育学部生活・健康系(体育)コースを卒業。18(2006)年から2年間、大学院修士課程生活・健康系(体育)コースで学ぶ。現在、加古川市立東神吉小学校に勤務する傍ら、地域のダブルダッチクラブでコーチを務め、昨年と今年のADDL世界招待選手権大会で優勝を果たした。

⬇今年6月、アメリカで開催されたADDL世界招待選手権大会のダブルスの決勝戦

研究の成果が実を結び恩師の言葉の意味を実感

子どもたちの遊びの発展からダブルダッチ(縄跳び)というスポーツに出合いました。その魅力に引かれ、地域にクラブを設立し、コーチを務めています。

4年前、大学院でかねてから考案していた指導法を研究する機会をいただき、大学時代の恩師の下で再び学ぶことができました。恩師からは事あるごとに、「どんなに素晴らしい指導法を知っていても、子どもたちが『この先生の言うことならやってみよう』と思わなければ教育は成り立たない」と指導していただきました。

修了した翌年、21(2009)年2月の国内大会ではクラブから優勝チームが誕生し、研究の成果は早くも実を結びました。さらに世界チャンピオンを決めるADDL世界招待選手権大会でも2年連続で優勝を果たしました。好成績を挙げた子どもたちの姿を見て、あらためて恩師の言葉の重みを感じました。私の指導を信じてついてきてくれた子どもたちや活動を支えてくださる多くの方々への感謝の気持ちを胸に、今後も精進していきたいです。

▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

教育実践研究活動等に係る表彰について

7月24日、岡山市で開催した第30回大学院同窓会総会で、平成22(2010)年度の「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、大学院修了生(個人または団体)で教育実践研究活動などで優秀な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高めた人が対象です。今年度は8人に授与しました。

被表彰者(敬称略)

嬉野賞▶池田芳和(5期・社会系)、下山田隆(15期・自然系)、武泰稔(1期・教育経営)、辰田芳雄(7期・社会系)、壷内明(1期・教育方法)　**奨励賞**▶梶谷光弘(7期・教育基礎)、谷井紀夫(8期・言語系)、平松義樹(1期・社会系)

問兵庫教育大学都道府県連携推進本部　TEL 0795・44・2406　FAX 0795・44・2376　http://www.hyokyo.net

クローズアップ

平成20（2008）年度「学生生活実態調査」の結果発表

兵庫教育大学では、学生委員会が平成3（1991）年度から数年おきに「学生生活実態調査」を実施しており、このたび、20（2008）年度の結果が出ました。その主なものは次の通りです。

①入学動機（学部生）

1位	将来教員になりたいから	77.3%
2位	国立大学だから	64.7%
3位	地元の大学だから	25.9%
4位	教員への就職率が良さそうだから	21.5%

入学動機と卒業後の進路

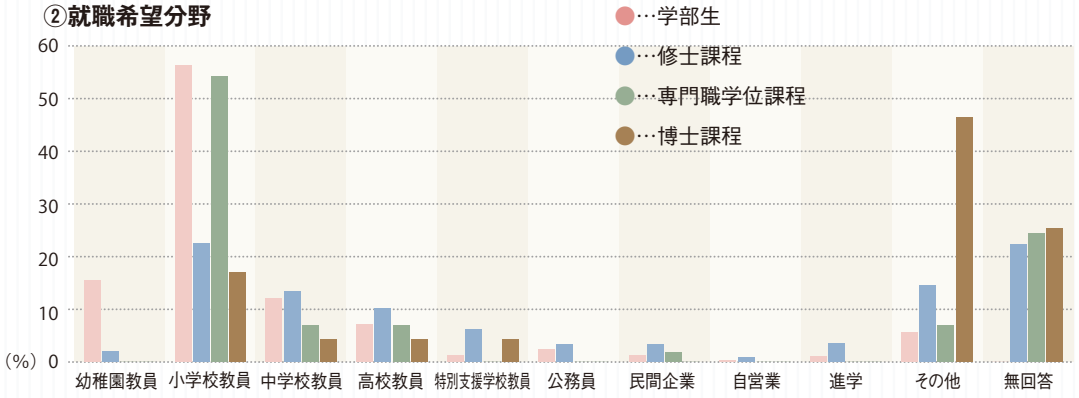
学部生の入学動機【①参照】の第1位は当然、「将来教員になりたいから」でした。注目すべきは「教員への就職率が良さそうだから」が前回の6位から4位にランクアップしたこと。全国トップの教員就職率に裏付けられた結果といえます。

卒業後の進路【②参照】については学部生、大学院生ともに教員がトップで、こちらも当然の結果となりました。

1日の勉強時間

学部生が「0～1時間」（65・5%）、修士課程と博士課程が「3時間以上」（修士40%、博士37・5%）、専門職学位課程（教職大学院）が「1～2時間」（34・5%）が最も多い回答でした。

②就職希望分野



課外活動やボランティア活動への参加

学部生の79・1%が課外活動（クラブ）に参加しており、その動機は、男子が「技術の向上のため」、女子が「友人がほしい」が第1位でした。ボランティア活動【③参照】には学部生、大学院生を合わせて4割以上が参加。学部生は半数以上（52・6%）を数え、内容は「地域の子ども会活動」がトップでした。

悩み、不安

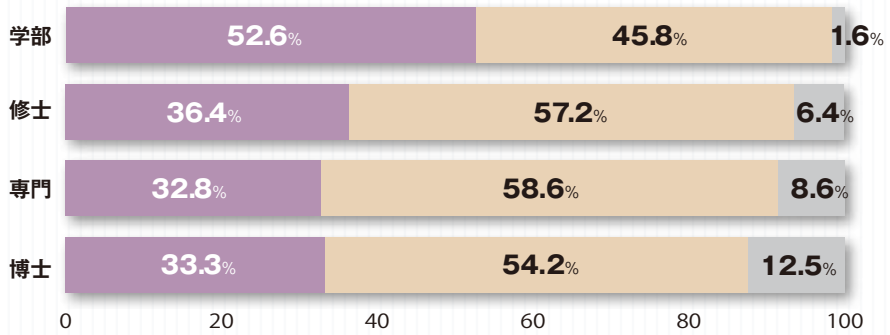
学部生、大学院生ともに「就業や進路のこと」「経済的なこと」「学業に関すること」が上位を占めました。悩みや不安の対処方法は「友人、先輩に相談する」が最も多い回答でした。

学生生活の満足度

「満足している」「ほぼ満足している」と回答した割合は71・2%でした。

この調査結果に基づき、生活習慣の改善を促したり、学内の施設や設備を改修したりと、学生がより快適に過ごせる環境づくりに努めていきます。

③ボランティア活動参加率



みずたにたつや
水谷達也さん
大学院専門職学位課程
授業実践リーダーコース2年

空手に出合って15年 地道に続けて 大きな試合にも出場

⬅大阪市代表のメンバーたちと

⬆都市間交流スポーツ大会にて

これに夢中！

実家の隣が師範の家だった縁で、空手を始めて15年。自分は運動が得意でもなければ、理解力が優れているわけでもなく、試合に出場しても最初は1回戦負けばかりでした。

一緒に始めた友人は塾に通うためにやめていきましたが、自分はやめずに続けることで、少しずつ結果が出るようになり、高校時代には近畿大会への出場を果たし、兵庫県や神戸市の強化選手にも選ばれました。

また、今年7月には大阪市の大会で準優勝したことから、五つの政令指定都市の代表が出場する都市間交流スポーツ大会に大阪市代表として出場させていただくという貴重な体験をしました。

授業や実習で忙しく、練習時間を確保できない時もありますが、これから出場する試合でより良い結果を残せるよう、さらに上をめざして練習に励みたいです。

お気に入りスポット

わかまつあきこ
若松亜希子さん
学校教育学部
言語系コース3年

はしもとじゅん
橋本純さん
学校教育学部
言語系コース3年

⬆駐車場から撮影。カーナビの目的地設定は「加東市光明寺433」で

滝野六甲

加東キャンパスから車で北西へ約30分、五峰山の山道を上った所にある夜景スポットです。兵教生の間では〝やしろ六甲〟とも呼ばれています。本家、六甲にはかないませんが、加東市街の夜景を一望できます。駐車スペースもあり、夜景を正面に見るかたちで止めれば車内から眺められます。在学中に一度は訪れてみる価値ありですよ。

留学生リレーメッセージ⑤

オルテガ・グスマン・パオラさん（メキシコ）
教員研修留学生

兵庫教育大学は地域の学校との交流活動が盛んで、貴重な経験をさせていただいています。先日も研修の一環として、イエメンとガボンの留学生と一緒に神河町立長谷小学校を訪ねました。子どもたちにメキシコのことを紹介したり、一緒に遊んだりしました。子どもたちはとても優しく、とても楽しく過ごせました。これからもさまざまな文化体験や研修を通して、日本をもっと知りたいと思います。

⬆長谷小学校の子どもたちと記念撮影

ゴールボールの練習に潜入！

今年5月から学部生たちが視覚障害者のスポーツ練習に補助員として参加しています。活動を通して障害者支援に対する考え方が変わってきたようです。

大学院OBのアドバイスで障害者スポーツへの理解を

⬅守備練習で威力あるシュートを投げ込む江﨑さん

⬅ボールは硬質のゴム製。水垣さんは「あごにシュートが直撃して切れたことがありました」と苦い思い出も

➡10秒を計測する村部さん

神戸市西区にある「国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局神戸視力障害センター」では、視覚に障害がある10歳代から60歳代の人たちが自立訓練や職業訓練を受けています。部活動も活発で、今年5月からはゴールボール部の練習に兵庫教育大学の学部生3人が補助員として参加しています。

木曜の午後3時半、体育館では部員たちに交じって、水垣真里菜さん（総合学習系コース2年）、村部佳苗さん（総合学習系コース2年）、江﨑真陽子さん（生活・健康系コース2年）がゴールを運んで準備に取り掛かっていました。ゴールボールは1チーム3人で戦う球技。コートの両端がゴールになっており、プレーヤーは目隠しして、鈴の入ったボールを転がすように投げ合い相手ゴールを狙います。守備の際は鈴の音を頼りにシュートコースを読み、3人が横並びに寝そべるような体勢で自陣のゴールを守ります。

彼女たちを誘ったのは同センターの教官で、今春に大学院修士課程を修了した細川健一郎さん。「健常者でなければ満足にスポーツを楽しめないという先入観を持ってほしくなかった」と語ります。「将来、学生たちが担任する中に障害のある子どもがいることもあります。高学年の体育は競技のレベルが上がり、障害のある子どもはつい横に置かれた状態になりますが、ルールを工夫したり、アシストしたりすれば十分に参加できます。そのあたりを感じ取ってもらえたらと思います」

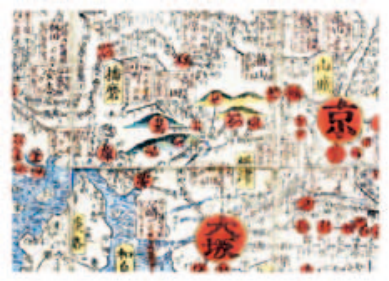
ボールを対角に転がし合う〝キャッチボール〟から始まり、守備練習へ。守備体形を取る部員の後ろにあるゴールの隅を狙って、江﨑さんが速いボールを投げ込みます。「いつもはね返されてしまいます。さすがに守りが堅いんですよ」と苦笑い。

部員たちもシュートをブロックした後、すぐさまシュートを投げ返します。攻守が切り替わったら10秒

教材文化資料館平成22年度後期展
「私たちの座標―地図の今と昔」
10月8日～2月24日

明治から大正にかけての地理学関係教科書や珍しい古地図などを展示。歴史と現在を知る資料として「地図」を考察します。最先端技術を駆使した地図表現や加東市の立体模型、加東キャンパス周辺の航空写真も展示。地図とかかわりの深い「旅」「移動」にも焦点を当て、兵庫県内の廃線跡の地図や写真、三木鉄道の模型なども展示します。

◎開館時間
8:30～22:00、土曜9:00～17:00、日曜・祝日13:00～17:00（大学休業期は異なります。臨時休館あり）
問兵庫教育大学教材文化資料館（附属図書館内）TEL 0795・44・2362



⬆大日本早見道中記（部分）

N e w s

「四川大地震こころのケア人材育成プロジェクト」の訪日研修を実施

国際協力機構（JICA）からの依頼で8月9日から13日までの5日間、中国の教育班23人を受け入れ、※「四川大地震こころのケア人材育成プロジェクト」の訪日研修を実施しました。研修では、冨永良喜教授（臨床・健康教育学系）をはじめ、教員や臨床心理士、兵庫県教育委員会の震災・学校支援チーム〝EARTH〟の隊員らが講師となり、心理健康教育（日常編）、同（災害・命の教育編）、防災教育、教育相談を柱に、模擬授業や阪神・淡路大震災後のこころのケアなどの活動報告を行いました。参加者からは「メンタルヘルスケアなど専門的な知識やノウハウなどを知ることができた」などの声が聞かれました。

※2008年5月に発生した四川大地震の復興支援の一環として、被災者のメンタルケアに従事する人材の育成を目的に、国際協力機構が中国政府の要請を受けて09年6月から5年間の計画で実施しているものです

Ureshino Scramble

◎視覚障害者向けの主な球技

視覚障害者同士、視覚障害者と晴眼者が楽しめるように考案されています。スポーツを通して、視覚障害者に対する理解を深めてはいかがでしょうか。

名称	競技方法
ゴールボール	1チーム3人のアイマスクをしたプレーヤーが、鈴の入ったボールを転がし、相手ゴールを狙います。コートのサイズは6人制バレーボールと同じです。
グランドソフトボール	1チーム10人（うち4人以上は全盲）で1試合7回制。ピッチャー（全盲）はハンドボールをゴロで投球します。
フロアバレーボール	1チーム6人で、前衛3人（全盲）と後衛3人に分かれます。ネットを挟んで、転がってくるボールを打ち合います。
サウンドテーブルテニス	ラバーの張っていないラケットを使って、金属球入りのピンポン球をネットの下をくぐらせて打ち合います。アイマスクを着用します。
ブラインドテニス	ショートテニス用のラケットでバウンドすると音の出るスポンジボールを打ち合います。シングルスとミックスダブルス（晴眼者とペア）があります。
ブラインドサッカー	ルールはフットサルを基にしています。B1（全盲）クラスでは鈴の入ったボールを使います。プレーヤーはゴールキーパー（弱視者か晴眼者）を含めて5人。キーパー以外はアイマスクを着用します。

⬅今春、大学院修士課程（生活・健康・総合内容系コース）を修了した細川さん。彼女たち以外にも、2人の学部生がブラインドサッカー部の補助員に誘われ、活動を続けています

➡補助員の活動について、「将来、教員になったときに必ず役立つと思います」と口をそろえます

以内に相手に返すというルールがあり、ゴール脇では村部さんがストップウオッチ片手に計測します。

部員たちは、学生の存在に「ありがたい」と口をそろえます。「学生さんのおかげでゴールを出せるようになりました」と話すのは守備の要、天羽隆大さん。部員と細川さんだけでは大き過ぎて持ち出せないため、幅も高さもほぼ同程度の体育館の舞台下の壁をゴールに見立てていました。「シュートを後ろに弾いた場合、それがゴールインしたかどうか分かりにくい。やはり本物のゴールの方が実践的です」と白い歯がこぼれます。

参加して約5カ月。村部さんは「最初は視覚障害の方とどう接すればいいか不安でしたが、何も構える必要はありませんでした。ゴールボールも面白いですし」とその表情には充実感が浮かびます。以前から特別支援教育に関心があったという水垣さんは「特別支援学校教員の資格取得にもチャレンジしてみようかと考えるようになりました」と意欲を見せます。

障害者が行うスポーツに対する先入観の払しょく。細川さんの思いは、回を重ねるごとに学生たちに確実に浸透しているようです。

◎平成23年度大学院学校教育研究科学生募集（後期選抜試験）

修士課程

◎募集人員92人

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	7人
	夜間クラス	若干人
学校心理学コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	5人
臨床心理学コース	夜間クラス	15人
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース		5人
特別支援教育コーディネーターコース		2人
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人

※昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト（神戸市中央区）で開講します（昼間と夜間を区別していないコースは昼間クラスのみです）。
※言語系コースには国語分野と英語分野、自然系コースには数学分野と理科分野、芸術系コースには音楽分野と美術分野があります。

兵庫教育大学では、平成23（2011）年4月から大学院修士課程の専攻・コースを再編します。
この再編は、新しい時代に対応し、従来の教育研究内容に加え、学校教育現場が必要としている総合的、複合的な分野・領域の教育研究を充実させることを主な目的としています。
前期・後期選抜試験は、現在の修士課程の専攻・コースで実施となりますが、新しい専攻・コースに入学することになりますので、ご了承ください。

専門職学位課程（教職大学院）

◎募集人員46人

▶教育実践高度化専攻		
学校経営コース	昼間クラス	11人
	夜間クラス	若干人
授業実践リーダーコース	昼間クラス	15人
	夜間クラス	若干人
心の教育実践コース 道徳教育、進路指導、生徒指導・教育相談、学級経営など	昼間クラス	15人
	夜間クラス	若干人
小学校教員養成特別コース		5人

※昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト（神戸市中央区）で開講します（昼間と夜間を区別していないコースは昼間クラスのみです）。

◎出願期間　10月8日㊎～15日㊎（消印有効）
◎試験日　11月13日㊏（筆記・口述）
◎合格者の発表　12月3日㊎10:00
㊐入試課　TEL 0795・44・2067

◎平成23年度園児・児童・生徒募集

附属幼稚園

◎募集人員
3年保育（3歳児）40人、2年保育（4歳児）20人
※23（2011）年4月1日時点での年齢
◎出願期間　10月25日㊊～29日㊎
◎選考結果発表、抽選日　11月13日㊏
㊐附属小学校事務室 TEL 0795・40・2218

附属小学校・中学校

◎公示日　11月1日㊊
㊐附属小学校事務室 TEL 0795・40・2218
㊐附属中学校事務室 TEL 0795・40・2224

◎教育実践学フォーラム
～学校教育の諸問題と可能性を求めて～

メーンテーマ「子どものつまずきの発見と対応」のもと、「発達障害のこどもの学習支援」と題して、その科学的な解明に取り組んでいる研究者が研究内容を紹介します。参加無料（要申し込み・先着順）。
◎日時　10月30日㊏14:30～16:00
◎ゲストスピーカー　正高信男さん（京都大学霊長類研究所教授）
◎場所　キャンパス・イノベーションセンター大阪
◎対象　研究者、大学院生、教員など
◎申込方法　メールとファクスで受け付けます
㊐㊥連合大学院事務室
TEL 0795・44・2068　FAX 0795・44・2269
✉ office-rendai-r@hyogo-u.ac.jp

◎第29回大学祭（嬉望祭）

今年のテーマは「PUZZLE（パズル）」。学生や地域の人たち一人一人が力を合わせ、楽しい学園祭をつくることが目標です。模擬店やクラブの発表をはじめ、芸能人によるイベントやバンド演奏など、盛りだくさんの内容です。
◎開催日　11月20日㊏、21日㊐
◎場所　加東キャンパス
㊐学生支援課
TEL 0795・44・2050　FAX 0795・44・2049
✉ office-gakusei-t@hyogo-u.ac.jp

◎附属中学校研究発表会

研究テーマ「『学び合い、高め合う授業づくり』（4年次）ー生徒・教師のかかわりを通してー」
◎内容　基調提案、公開授業、研究授業、授業研究会、講演会
◎開催日　10月22日㊎
◎場所　附属中学校
㊐附属中学校（担当:高松）
TEL 0795・40・2222　FAX 0795・40・2225
http://www.hyogo-u.ac.jp/middle

◎附属幼稚園研究発表会

研究テーマ「保育における『つながり』を考えるー自然・体験・仲間ー」
◎内容　保育公開、研究協議
◎日時　11月3日㊌㊗、1月26日㊌9:00～16:00
◎場所　附属幼稚園
㊐附属幼稚園（担当：由谷）
TEL 0795・40・2227　FAX 0795・40・2228
✉ kinder@hyogo-u.ac.jp
http://www.hyogo-u.ac.jp/kinder

◎附属小学校研究発表会

研究テーマ「『自己を形づくる』学校の構築（2年次）」
◎内容　授業公開、講演会、分科会
◎開催日　1月27日㊍・28日㊎
◎場所　附属小学校
㊐附属小学校（担当:長戸）
TEL 0795・40・2216　FAX 0795・40・2219
✉ element@hyogo-u.ac.jp
http://www.hyogo-u.ac.jp/element

編集後記

●「猛暑」「酷暑」「極暑」―。この夏は、こんな言葉を使ってもなお表現しきれない、そんな夏でした。それでも、本誌が読者の皆さまに届くころには、きっと秋の風情が漂っていることでしょう。さて、今号の「教育最前線」では、特別支援教育を取り上げました。LD、ADHD、自閉症など、発達障害のある子どもの特性と教育の現状について、再認識していただくきっかけとなれば幸いです。また、通常学級における学習支援の在り方や学級経営上の諸課題に関し、実践的な議論がなされることを期待します。（あ）
※バックナンバーは兵庫教育大学ホームページでご覧ください。

◎あなたの声をお聞かせください

「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりをめざしています。
はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方には、オリジナル・シャープペンシルを進呈します。

●あて先：〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務室
TEL 0795・44・2334　FAX 0795・44・2009
✉ office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

教育子午線 Kyoiku-Shigosen October, 2010 vol.24　第24号　2010年10月発行　発行／兵庫教育大学 大学広報室　http://www.hyogo-u.ac.jp
編集協力／㈱神戸新聞総合印刷

この印刷物は再生紙を使用しています。